



## 園長のひとりごと

～心の育ち～子どもの発達心理の視点より～

子どもは発達過程の中で色々な形で「自分」というものを出します。  
その行動は時に「わがまま」ととられがちですが、それによって子どもは様々な事を獲得し、自己を形成していくのです。  
例えばその一端として・・・

♪3歳の頃は・・・

「好き」「嫌い」と自分の好みが明確になっていき、それを無視されると怒り、認めてもらうように要求します。  
それは「個性」の表れでもあります。だから大切にしましょう。

♪4歳の頃は・・・

「勝つ」「負ける」の意識が強まり勝負にこだわって、負けると悔しくて大泣きすることも。順位を理解できるようになり、1番にこだわる「1番病」も見られますが、これが生きる力になっていきます。

♪5歳の頃は・・・

「善意」がわかってきます。“牛乳を飲むと大きくなるから飲む”など知識や道徳、価値感で物事を判断し行動するようになると同時に、自分の道徳基準に反する人を非難する姿も見られます。

子どもの成長において、この一見自己中心的に思える「自分を出す行動」もしっかり経験させましょう。そして大人はその子どもの心を受け止めてください。

しかし、基本的な土台があつての個性ですので、正しい事を教えていくことを忘れないでください。  
年齢にあわせた発達段階を踏んで、子どもたちは個性の中に協調性、集中力や持続力、  
知性や社会性が大きく発達し、1人の望ましい人間として成長していきます。

目覚ましい心身の発達を遂げる時です。子どもの心をよく理解して賢い親となりましょう。

1人の賢い親を持つ子どもは、10人の教師に勝るものがあるとされています。

2024年5月  
園長 杉田雅美

